



1958年12月1日創立 国際ロータリー 第2730地区

鹿児島南ロータリークラブ

2015-2016年度 国際ロータリーテーマ
「世界へのプレゼントになろう」 Be a gift to the world

2015-2016年度 クラブテーマ
「全員参加で、楽しく有意義なロータリーライフを！」

会長:武井 美智子 会長エレクト:上川 咲男 幹事:永田 芳郎
基本的教育と識字率向上月間・ロータリーの友月間

2015-2016年度 RI会長 K.R."ラビ"ラビンドラン(スリランカ・コロポRC)
2015-2016年度 第2730地区ガバナー 野中玄雄(延岡東RC)
市内分区分ガバナー補佐 内村文泰(鹿児島RC) 日高文治(鹿児島南RC)

週報

Vol.58 No11

平成 27年 (2015年)

9月16日

【事務所】
〒890-0062 鹿児島市与次郎1丁目8-10
TEL:099(254)1117 FAX:099(254)1119
E-mail:south-rc@po.minc.ne.jp
【例会日】 毎週水曜日 12:30~13:30
【例会場】 サンロイヤルホテル

【第2770回例会】クラブフォーラム (委員会別 A)

平成 27年 9月 9日 第 2769回例会

[点鐘] [ロータリーソング] 我等の生業

[ゲストビジター紹介]

卓話者 有村公良様

米山奨学生 馬 麗娜様

鹿児島中央 RC 石崎信一郎様

[奨学金授与] 会長より馬 麗娜様へ

[8/23 青少年交換オリエンテーション報告] 永田会員

[ロータリーの友より] 上川会員 P12,P3 紹介

[ソウル国際大会について] 内田会員



★ 会長挨拶

昨日、三名の新入会員の推薦者に対し、国際ロータリーから認証ピンと裏当てが届きました。「新会員推薦者のための認証プログラム」は、新会員の勧誘に貢献した会員を称えるために、国際ロータリー理事会が承認した新しいプログラムです。これにより、2013年7月1日以降にロータリーに入会した新会員の推薦者に、認証ピンと裏当てが贈呈されることになっています。裏当ては、推薦した新会員の人数に応じて異なる色が使用されており、新会員を1人推薦した正会員には、ブルーの裏当てが贈呈されます。鹿児島南RCでは、今年度から登録を開始しましたが、可能であれば、2013年度にさかのぼって推薦者の登録をさせていただきたいと思っています。

今年度、ラビンドランRI会長は、オンラインツール利用を推奨し、奉仕活動や会員基盤強化を図っています。オンラインツールには、クラブの奉仕プロジェクトを紹介できるロータリーショーケース、活動への支援を募るためのアイデア応援サイト、目標管理に役立つロータリークラブセントラル、そして会員同士が意見交換できるフォーラムなどがあります。RI会長賞の活動項目のうち、必須項目は、会員維持増強、財団への寄付、オンラインツールの利用、人道的奉仕、新世代、公共イメージの7項目です。クラブがこれらの活動項目に取り組むことで、会員基盤が強化され、地域社会に奉仕する力が高まり、ロータリーの活動を社会に知らせ、評価の向上に役立つことが期待できます。この会長賞の受賞資格である活動状況も、オンラインの新しいツール「会長賞ダッシュボード」で確認できるようになり、達成状況の把握、報告が正確かの確認や、クラブの改善点を見つけるのに役立ちます。

また、会員のための新しい特典プログラムが開始されました。これは、すべての会員に、定評あるサービスや企業・機関から、割引や特典を提供するものだそうです。

会員の皆様も、マイロータリーに登録し、どうぞ一度試しに、これらのサイトにアクセスしてみてください。

☀ 会務報告

①市内 RC 会員名簿、鹿児島南 RC の会員名簿が届きましたのでお配りしています。

②9/13 (日) 地区クラブ研修セミナーに永田幹事出席です。

😊 スマイル報告

○武井美智子君 有村先生、本日はようこそ鹿児島南 RC へお越しいただきありがとうございます。神経難病の勉強を、本日はさせて頂きたいと思っています。

○今村正人君 有村公良先生、ご多忙の中おいで下さりありがとうございます。卓話、楽しみにしています。

小 計 3,000 円 累計 140,000 円

卓話 神経難病への理解

医療法人三州会大勝病院 有村公良

「難病」とは医学的に明確に定義された病気の名称ではなく、社会通念で言う

「不治の病」として用いられて来た。現在は「難病」とは、「根治療法がなく長期の療養が必要な慢性疾患」と定義される。

日本の難病対策は、昭和 47 年スモンの原因究明の経験から、難病の中でとくに公的支援が必要な 56 疾患を国が指定し、研究・支援が行われてきた。しかし新たな難病の発見、患者数の著しい増加から、平成 27 年より新たな難病対策が始まり、指定難病として 56 疾患から 306 疾患に増加した。これらの指定難病の中でも神経難病は 1/4 以上にものぼる。これは未だに脳、脊髄など神経系の病気は原因不明のことが多く、かつ治療困難であることを物語っている。このため神経難病の対策は単に診断・治療など医療的側面だけでなく、介護、社会復帰の支援など多岐にわたっている。

新たな指定難病の一つに、鹿児島大学第三内科で発見され、疾患概念が確立した HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) がある。HAM は全国の中でも鹿児島県で最も患者数が多い。HAM の原因はヒト成人 T 細胞白血病ウイルス 1 型 (HTLV-1) であり、このウイルスによる脊髄の障害機序も明らかになっているが、未だにウイルスそのものを消滅させる根治療法が確立されていない。他の難病でも同様であり、根治療法はほとんどなく疾患装飾療法 (DMT) が主体であることが多い。しかし最近難病患者から樹立された iPS 細胞を用いて、原因究明だけでなく、有効な治療法を開発する試みが急速に進んでおり、大いに期待が持てる。一方リハビリテーションの分野でも大きな進歩があり、神経系への磁気刺激や電気刺激、ロボットスーツなどを用いて、失われた脳や脊髄の運動回路を再生させる試みが盛んとなっている。

難病の克服は発症の予防、根治療法、機能の回復という複合的な視野から行わなくてはならないが、何よりも一般の方々の理解が重要と考えている。

